

東京大学総合研究博物館所蔵
小堀巖教授旧蔵沙漠誌コレクション目録

第3部 アーカイブ資料および補遺

CATALOGUE OF ARID LAND RESEARCH MATERIALS
IN THE IWAO KOBORI COLLECTION

Part 3
Archives and Photographs

三國博子・縄田浩志・西秋良宏

Hiroko Mikuni, Hiroshi Nawata and Yoshihiro Nishiaki

The University Museum, The University of Tokyo
Material Reports No. 123

Editorial Board

Yoshihiro NISHIAKI (Editor-in-chief; Archaeology)

Hiroshi IKEDA (Botany)

Yosuke KAIFU (Physical Anthropology)

Takeshi MIKOUCHI (Planetary Science)

Takenori SASAKI (Paleontology)

Eisei TSURUMI (Cultural Anthropology)

Masaya YAGO (Entomology)

The University Museum, The University of Tokyo, Material Reports No. 123

三國博子・縄田浩志・西秋良宏 (2021) 『東京大学総合研究博物館小堀巖教授旧蔵沙漠誌コレクション目録. 第3部:アーカイブ資料および補遺』東京大学総合研究博物館標本資料報告第123号. 東京大学総合研究博物館, 東京.

Hiroko Mikuni, Hiroshi Nawata and Yoshihiro Nishiaki (2021) *Catalogue of Arid Land Research Materials in the Iwao Kobori Collection. Part 3: Archives and Photographs*. The University Museum, The University of Tokyo, Material Reports No. 123. Tokyo: The University Museum, The University of Tokyo.

All communications pertaining to this publication should be addressed to the Editorial Board, the University Museum, the University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan.

Issued March 10, 2021

ISSN 0910-2566

©The University Museum, The University of Tokyo

Printed by Shobi Printing Co., Ltd., Tokyo

目 次

はじめに

小堀巖のフィールドワークの軌跡とその特徴について・ 1

The Iwao Kobori Arid Land Research Collection (Part 3)・ 7

写真図版(Plates 1-38)

アフリカ(Africa)・ 10

西アジア(West Asia)・ 23

中国(China)・ 36

アンデス(Andes)・ 40

ポスター・はがき(Posters and postcards)・ 44

フィールドノート(Notebooks)・ 46

資料目録(Material List)

アーカイブ資料・ 49

補遺:自然地理資料・ 190

はじめに

本標本資料目録シリーズにおいて、『小堀巖教授旧蔵沙漠誌コレクション目録』の刊行を続けてきたが、今回の第3部刊行をもってひとまずの区切りとなる。第1部で考古民族資料（2017年）、第2部で自然地理資料（2018年）を扱ったのに引きつづき、第3部には小堀巖教授（1924–2010）が残された野帳や写真、関係書類などアーカイブ類を収めた。あわせて、第2部関係資料の残部を補遺として収録した。どれも、1956年に初めてイラク・イラン遺跡調査に参加されて以降、小堀巖教授が生涯をかけて続けられた乾燥地調査の地理学的証拠資料である。今、それらが地理学資料だと述べたが、それは、小堀教授が本学理学部地理学教室に長く籍を置かれ、また、総合研究博物館の前身、総合研究資料館地理部門の主任をつとめられたことに基づくものである。教授の研究業績に照らして、本コレクションが乾燥地地理学において大きな貢献をなしたことは明らかであるが、編者らの目からみて自然史とも文化史とも判断しかねるその多様性は、コレクションがもつさらに広い潜在的な学術的価値を示唆しているように思う。

既に一部の標本、世界の乾燥地で収集された砂コレクションは総合研究博物館インターメディアテック、水コレクションや考古民族資料は本郷本館UMUTオープンラボにおいて常設展示に活用しているところである。各地の砂や水、香辛料や歯磨き枝を集めて東京大学が保管することにどんな意味があるのか、展示物を前に、その学術的意義を学生たちと議論すると彼らの目が輝くのがわかる。尽きない議論は編者らの喜びであり続けている。学術の原点とも言うべき知的好奇心を具現化した小堀コレクションは、向後、様々な発想、研究計画を喚起していくものと信じてやまない。

小堀コレクションの整理は2012年に関係資料が本館に集結されて以来、10年をかけておこなったことになる。その間、整理作業には実に多くの関係者のご助力を得た。第1部、2部にかかげた関係者のお名前は重ねないが、今回の第3部の作成にあっては次の各位に深甚の謝意を表す次第である。総合研究博物館地理部門主任茅根創教授、理学系研究科地球惑星科学専攻栗栖晋二技術専門員には変わらぬご協力をいただいた。また、標本の写真撮影には上野則宏（上野写真事務所）、野久保雅嗣（東京大学東洋文化研究所）両氏のご尽力を得た。さらに、データ整理においては、高橋素美鈴（東海大学）、池山史華（早稲田大学）の協力を得た（所属はいずれも当時）。

また、標本の出所や名称鑑定、さらに文書資料を扱う本巻においてはアラビア語解読など、前二巻と同様ないしそれ以上に識者の専門的知見を頼ることとなった。とりわけ、下釜和也（古代オリエント博物館）、鶴見英成（総合研究博物館）、サリ・ジャンモ（総合研究博物館）、矢口まゆみ（総合研究博物館）、吉竹めぐみ氏らには貴重なご教示をいただいた。記して厚く御礼申しあげるものである。

東京大学総合研究博物館

西秋良宏

小堀巖のフィールドワークの軌跡とその特徴について

縄田浩志

秋田大学大学院国際資源学研究所

小堀巖（1924～2010）の中心的研究テーマは、世界の乾燥地における水問題、特にカナート・システムとオアシスの研究であった。カナートとは地下式灌漑水路のことで、イランではカナート、アフガニスタンやパキスタンなどではカレズ（カーリーズ）、アラビア半島東部ではファラジュ、北アフリカではフォガラ（フォッガーラ）もしくはハッターラなどと呼ばれている（小堀1996）。先生ご自身の言葉を借りれば、「ライフ・ワークはカナートの起源・伝播・未来の研究であると共に、この貴重な伝統的水技術に関する知識を世界中の一般市民と未来世代に向けてさらに広めて保存していくこと」にあった（Kobori 2008）。

フィールドワークは、西アジア、北アフリカ、中国、アメリカ大陸、そして日本において1948～2010年の60年以上にわたって実施された。

20歳代はじめに、日本諸学振興会の援助を受けて「大東亜集落の地理学的研究」の一貫として1944年末に実施した満州における民族複合現象、祭祀、言語に関する調査を皮切りに（小堀1949a, b, c）、戦後日本においてフィールドを共にする総合的学術調査の幕開けを告げた八学会（日本民族学会、日本民俗学会、日本人類学会、日本社会学会、日本言語学会、日本地理学会、日本宗教学会、日本考古学会）合同連合総合対馬調査において、研究調査の総合および事務連絡を担う本部の幹事の一人としての経験を持ったことが（小堀1951）、その後の半世紀以上にわたるフィールドワークの素地を磨き、関心を形づくった貴重な機会であったと考えられる。

30歳代になると、東京大学を中心に形成された3つの海外学術調査隊、すなわちイラク・イラン遺跡調査団（江上波夫団長、考古学、1956年～）、アンデス地帯学術調査団（石田英一郎・泉靖一団長、文化人類学、1958年～）、西アジア洪積世人類遺跡調査団（鈴木尚団長、形質人類学、1961年～）に参加したことにより、調査地域は世界の乾燥地に、そして中心的な研究テーマは水問題、伝統的水利体系に定まっていた。最初の学術論文としての研究発表はイラン、西アジアに関しては1958・1959年、アンデスについては1960年であるが、日本語・英語で発表された主要な論考は『乾燥地域の水利体系』（小堀1996）に所収されている。

北アフリカのサハラ沙漠を最初に訪問したのは、1961年であった。多くのオアシスを踏査し、水利体系フォガラ、ナツメヤシ農業、生活の現状を記録した（小堀1962）。政府高官、学者、村人といった様々な人々との出会いと会話による触れ合いの様子が生きいきと描かれているが、アルジェリア中部アウレフでは、農業指導に携わるハッジ（アルハッジ）青年と初めて出会った時のエピソードが披露されている。ハッジ氏とは（Plate 7-2、Plate 8-2参照）、それ以来半世紀近く（30歳代から80歳代まで）の交流を続けて、フォガラの記録と保全、サハラ・オアシス社会の発展のために共に力を注ぐこととなった（石山ほか2013）。

40歳代で北アフリカから西アジアに至る乾燥地を広く踏査した際の人々と自然に関する臨場感あふれる観察と分析は、『サハラ沙漠』（1962）を皮切りに、『死海』（1963）、『西アジア・アフリカの国々』（1966）、『ナイル河の文化』（1967）、『沙漠』（1972）、『アラビアの旅から』（1984）といった地誌・旅行記・調査記録として、当時、現地に足を踏み入れることが難しかった北アフリカ・西アジア乾燥地の自然、社会、文化、生活について日本社会にわかりやすく解説した。

50歳代になると、自身が代表を務めて科学研究費補助金による海外学術調査「旧大陸乾燥地帯におけるフォガラ涵養オアシスの比較調査」（1977～1980年）を組織し、ユーラシア・アフリカ各地で広大なスケールでフォガラ（カナート）に関する比較調査を実施したが、主たるフィールドとした国は西アジアではシリア、北アフリカではアルジェリアであった。シリアにおいてはタイベ・オアシスで集約的な合同調査を実施した。その理由は、その周辺には中期旧石器時代以降の遺物の散在がみられ、隔絶したオアシスでありながら地中海からメソポタミアにかけての交易ルート上にある歴史地理的な位置の重要性であると同時に、村の規模が人口約600人と適当であったからだった（小堀1996）。考古学、人類学、歴史学、地理学に根ざした多角的な関心に基づいたフィールド調査であったことが理解できる。

もう一つの集約的な調査地は、アルジェリア中部においてそれ以前に実施された概要調査（小堀1965）を踏まえて選択された、ティディケルト地方のイン・ベルベル・オアシスであった。このオアシスもシリアのタイベ・オアシスと同程度の人口規模の小さなオアシスであったが、1977年以降2010年まで、つまり50代半ば以降80歳代までの30年を費やして再訪を繰り返し、精力的なフィールド調査を継続することになる。その後も様々な機会をとらえて広域で現地調査を実施したが、文部科学省、国際協力機構、トヨタ財団、ユネスコ、国連大学、世界銀行、国際乾燥地農業研究センター（ICARDA）、ECコミッション等、国際的機関を含む多くの組織から研究資金を受けた（Kobori 2008）。

以上のように、地理学、民族学、人類学、そして考古学的な関心と目的に根ざした総合的な学術調査により半世紀以上に及んで収集された研究資料は、いずれも高い学術的価値を有するものである。

例えば、アルジェリアのサハラ沙漠で収集された分水器シェグファ（シグファ）がある（登録番号 KB12.1、Plate 10-2参照）。シェグファとはカナートでひいてきた水を農業用水へと水量調整しながら分配する際に用いる金属製の円形で所々に穴が開けられた道具である。ハッジ氏が居住するアウレフ・オアシスで1961年の初訪問時に目にして記録に残したが手に入れることはできず、1967年に再訪した折に同氏に頼んで周辺地域を探しまわってやっと収集できた標本資料である（小堀1979）。2009年に小堀巖先生ご本人と共にティディケルト地方を訪問する機会が筆者にあったが、ハッジ氏をはじめアルジェリアの関係者は口をそろえて、今やこの分水器シェグファは国内には全く保管されていないのではないかと、当地の人々が一種の羨望の念さえ抱いている貴重な標本資料であることを知った。

野帳に関しては、基本的に、滞在場所、年月日を明記しているため、写真、論文等との対照は可能と考えられる。ただしご本人も自嘲気味にお話しされることもあったと記憶するが、本人以

外には少々解説が難しい筆記体であるという乗り越えるべき課題がある。また調査地に応じて現地語を駆使して複数言語（日本語、英語、仏語、アラビア語、中国語等）で記述されている場合も多いため、その点においても時間を費やす必要があるかもしれない。直筆の多くのスケッチが野帳に描き残されていることは特筆に値する。住居、風景、人物等を対象としており、学術的価値という観点にとどまらない魅力を持つ資料であろう。

フィールド写真については、全写真一枚ごとに撮影場所、撮影年月日が明記されているわけでは必ずしもないが、明らかなものの割合は高い。写真に付随する情報については、これもまた整備されているものとそうでないものがある。実は生前、ご本人の意思に沿って、写真整理をサポートさせていただいたことがあった。2008年当時、ほとんど全ての35mmリバーサル・フィルム（ポジフィルム）は先生の国連大学のオフィスにまとめて収納されていた。一案として、重要度が高いと判断する写真から随時デジタル化しつつ、情報を整理していくことを提案させていただいたが、先生はデジタル化のためにオリジナル写真を一時的にでも手放すことを非常に躊躇された。結果として紛失、損傷する可能性があること、また写真の順番が変わってしまうと自身の記憶の手がかりが断たれてしまうことがその理由であった。ポジフィルムを参照しながら一枚ごとに情報を付加していく作業を開始したが、あまり進展のないまま、突然旅立たれてしまったことは、正直悔やまれる。

一方、研究業績である書誌については、先生ご自身で網羅的なリストを作成していたため、ほとんどそのまま公開されている（向後・石山2014）。書誌情報と、今回作成されたコレクション目録に示されている諸情報、すなわち収集された国・地域、年月、内容等と対照することにより、小堀巖教授旧蔵沙漠誌コレクションが持つ学術的価値はさらに高まると考えられる。

小堀巖先生は、ご自身が開拓されたイン・ベルベル・オアシスでの集約的フィールド調査が、今後も長く継続されていくことを、強く望んでおられた。その旨の発言を、何度となく耳にした。というよりも、最晩年にイン・ベルベル・オアシスを含むアルジェリア各地の調査に同行させていただく度に、筆者と石山俊に対して幾度となくおっしゃられた。その理由は、より長い時間幅を伴ったフィールド資料となった時、その学術的価値は倍増する、また地誌や民族誌とはそうでなければならない、という強い信念と意思に基づいたものであった。ただし同時に強く戒められたのは、フィールド調査研究は自身の知的好奇心を満たし、学術的目を叶えるためだけのものでは決してならない、という点にあった。現地に暮らす人々と何を共有して、何を還元することができるのか、そのことをいつも胸にフィールド調査を実施していかねばならない、ということであった（縄田2013、Nawata 2011）。

したがって、当コレクションが3部の目録として整備されて公表されることは、小堀巖先生ご本人の遺志に沿うものであると、思いを新たにしている。本目録を参照する現世代また次世代の研究者らによって、研究発展が加速されると同時に、調査対象地に暮らす関係者を含めた世界中の人々が、沙漠のカナート・システムやオアシスに関心を寄せる大きなきっかけとなることを、心からうれしく思っている。

参考文献

- 石山俊／アブドウルラフマーン・ベン・ハリーフ／縄田浩志／小堀巖／ムハンマドアッサーリフ・フーティイヤ／ワシーラ・ベン・スリーマーン／アフマドアルハーッジ・ハンマーディー（2013）「変容するサハラ・オアシスのなりわいと生活—イン・ベルベル・オアシスの水源と農地と住居域」石山俊・縄田浩志編『アラブのなりわい生態系第2巻 ナツメヤシ』臨川書店、pp. 235–261。
- 向後紀代美・石山俊（2014）「乾燥地研究のパイオニア 小堀巖」縄田浩志・篠田謙一編『砂漠誌—人間・動物・植物が水を分かち合う知恵』東海大学出版部、pp. 421–444。
- 小堀巖（1949a）「満洲に於ける民族複合現象の一例—満洲屯とオラン・ハルガノー」『新地理』3巻6号、pp. 9–16。
- 小堀巖（1949b）「満洲族薩満の祭祀を見て—黒河省瑯瑯県大五家子村の場合」『民族学研究』14巻1号、pp. 26–32。
- 小堀巖（1949c）「瑯瑯附近の満洲族の言語について—『附』ダゲール語資料—」『民族学研究』14巻2号、pp. 59–64。
- 小堀巖（1951）「八學會の對馬調査はどのようにして行われたか」『人文』1巻1号、pp. 4–21。
- 小堀巖（1962）『サハラ沙漠—乾燥の国々に水を求めて』中央公論社、249頁。
- 小堀巖（1963）『死海—地の塩の現実』中央公論社、203頁。
- 小堀巖（1965）「サハラのオアシスと農業—Tidikelt の場合」『アフリカ研究』2号、pp. 16–46。
- 小堀巖（1966）『西アジア・アフリカの国々』偕成社、226頁。
- 小堀巖（1967）『ナイル河の文化』角川新書、198頁。
- 小堀巖（1972）『沙漠—遺された乾燥の世界』日本放送出版協会、217頁。
- 小堀巖（1979）「サハラ・オアシスの分水器」『UP』8巻12号、pp. 20–25、東京大学出版会【シエグファに関して直接解説した部分にしばって再録し、図と参考文献を一部加筆修正して、縄田浩志・篠田謙一編『砂漠誌—人間・動物・植物が水を分かち合う知恵』東海大学出版部、pp. 135–137に再録。】
- 小堀巖（1984）『アラビアの旅から—沙漠にて』未来社、376頁。
- 小堀巖（1996）『乾燥地域の水利体系—カナートの形成と展開』大明堂、327頁。
- Kobori, I. 2008 “Fifty Years of Personal Experience in Arid Land Studies,” *The Future of Drylands: International Scientific Conference on Desertification and Drylands Research, Tunis, Tunisia, 19–21 June 2006*, Paris, UNESCO; Dordrecht, Netherlands, Springer, pp. 77–87.
- Nawata, H. 2011 “Water Study for Peace: What I learned from Professor Iwao Kobori in China, Tunisia, Egypt, and Algeria (2005–2010),” *Journal of Arid Land Studies* 21 (2), pp. 63–66.
- 縄田浩志（2013）「サハラ沙漠のオアシス、イン・ベルベル研究の回顧と展望—小堀巖先生を偲んで」石山俊・縄田浩志編『アラブのなりわい生態系第2巻 ナツメヤシ』臨川書店、pp. 189–199。



写真1 野帳にスケッチをする小堀巖先生（アルジェリア、マダウロス遺跡にて、2006年12月、縄田浩志撮影）



写真2 ハッジ氏ら、オアシスの村人と語らう小堀巖先生（アルジェリア、イン・ベルベルにて、2009年5月、縄田浩志撮影）

The Iwao Kobori Arid Land Research Collection (Part 3)

Yoshihiro Nishiaki
The University Museum
The University of Tokyo

The present volume concludes the publication in three parts of the catalog of the Iwao Kobori Arid Land Research Collection. Following Parts 1 and 2, which covered archeological and ethnographic materials (2017) and natural geographic materials (2018), respectively, the documents in Part 3 are archival materials left by the late Professor Iwao Kobori (1924–2010), including his field notebooks, research documents, collected maps, and photographs. It also provides materials serving as addenda to the preceding two volumes.

The materials documented in Part 3 include detailed records of the field investigations by Professor Kobori, a geographer who devoted his academic career of more than half a century since 1956 to research the interactions between human communities and their surroundings through the lens of water management. The hand-drawn maps, descriptions, photographs, and 8-mm movie films documenting the distribution and types of water-irrigation systems in the Middle East and North Africa, matching his research interest, would be particularly useful for those interested in the water management systems in the regions. At the same time, the great number of postcards and governmental/non-governmental posters obtained from across the world also draws our attention. These materials, whose scientific value may not be apparent at a glance, were also collected through Professor Kobori's geographer's eyes and thus can be considered significant evidence documenting the changing societies at a particular moment in the arid lands.

On the occasion of publication of the present volume, all of the related archival materials and photographs of the Kobori collection were digitized to promote their availability as well as to ensure their preservation. The three volumes of the present catalog and the digital data are expected to enhance the multi-faceted values of the collection for the research and education of arid land studies.

凡例

本書は「小堀巖教授旧蔵沙漠誌コレクション」のうち書類と写真類を収録するものである。また、新たに登録した自然地理資料(KB19.～)も補遺として収めた。

データベースの記載方針は以下のとおりである。なお補遺の記載については第2部を参照されたい。

- (1)登録番号(Registration no.):本資料群はKB12、KB14で始まる。それぞれ2012年、2014年に登録した小堀コレクションであることを示す。以下、件別に通し番号が付され、一件につき複数標本がある場合は枝番号が与えられている。
- (2)品名(Description):整理者が内容を判断して命名した。
- (3)作成年(Year):記録あるいは複製された年。文献の図表の講義用スライドなど、複製を二次利用したものは「-」とした。
- (4)国・地域(Country/Region):記録された場所。対象物に準ずる。ただし絵画作品やはがきなどの印刷物はこの限りでない。
- (5)サイズ(Size):縦と横(8mmフィルムとリール式テープは径と厚み)それぞれの長さを1mm単位で表記。1件につき複数あるものは最大値あるいは収納ケースの大きさを記した。
- (6)備考(Notes):整理者の所見を記した。タイトル、注記などは、その内容を括弧または引用符を用いて記した。簡体字は日本語の漢字に置き換えた。判読できなかった文字は□で表した。
- (7)写真図版(Plates):冒頭にはフィールドワークの際に撮影された写真を掲げた。図版前半に掲載したアルジェリア各地の写真は1961年の踏査時に撮影されたものである。それには『サハラ沙漠—乾燥の国々に水を求めて』(小堀巖、中央公論社、1962年)に掲載された写真をふくむ。これに限り、同書の掲載頁をキャプションに示した。また、標本写真のうちPlate 35-2、36-1、36-2は上野則宏氏、Plate 35-1、38-2は野久保雅嗣氏の撮影によるものである。

三國博子